

2016 年度 FD カンファレンス概要

※内容は変更になる可能性がありますので、ご承知おきください。

テーマ：「信頼関係があれば学生は努力する」

授業を組み立てる際に内容や教材を吟味するのはもちろん、受講生数、学生のレベルやレディネス、学生が身を入れて学ぶためのしかけとテクニックなど、授業の質を左右する様々な側面を考慮しなければなりません。しかし、学生が能動的に学ぶことに最も影響するのは、教員と学生の人間関係です。学生はどのような人間でありどのように話せば伝わるか、人間としてどう接するかを軸にして、教育の様々な側面をブレイクダウンし、確実にアプローチしていきたいと思います。

全体プログラム

ALL-WS1：「ようこそ&アイスブレイキング」(平野吉直)

開会にあたり、身体を動かしてリラックスし、互いを知ることで、研修に楽しく参加していただく準備運動をします。

ALL-WS2：「研修の目的を設定する」(加藤善子)

二日間の研修を始めるにあたり、それぞれの目標を設定していきます。信州大学の教員同士が興味関心を共有することも目的にしています。

ALL-L：「効果が出る指導、効果が出ない指導」(田口多恵(信州大学))

授業において、学生の「見立て」を行うことで、指導を効果的に進めることができます。「見立て」とは、学生をアセスメントすることです。教員が学生の課題を把握し、どのような指導や働きかけをすればその課題を乗り越えられるか、の見通しを持つことが重要です。「見立て」が加わることによって学生に対する見え方が広がることを感じていただき、そこから信頼関係の構築を改めて考えてみたいと思います。

ALL-WS3：まとめとアンケート(加藤善子)

二日間の研修で、各先生方にとってどのような成果があったかをふりかえります。評価を行った後、解散です。

FD 研修(教養ゼミナール担当者研修)：(A)

A1-L/WS：「信大生の学習について」(李敏)

日々接している信大生ですが、一体どのように学習と生活をし、どのように自らの大学生生活を評価しますか。信大生が大学と教員にどんなことを求めていますか。本セッションにおいては、「新入生調査2011」と「大学生調査2014」の調査結果に基づき、信大生の学習実態をみたくうえで、学生が主体的に学ぶ方策について参加者とご一緒に考えていきます。

A2-WS：教養ゼミナール研修(加藤善子)

大学一年生が学ばなければならない価値や態度、そしてスキルは何でしょう？ 教養ゼミナールは、信州大学に入学したすべての学部的一年生が、自分の専門とは異なるトピックについて、自分とは異なる専門を持つ学生と交わりながら共に学ぶ機会であり、信大アイデンティティの一部にもなります。大学生としてその後の4年間を支える教養とは何かを語り合い、教養ゼミナールが共通して持つべき目標や、意識して行う活動などについて、アイデアを出し合います。同時に、授業外学習のデザインや学習時間の設計、評価構造についても触れたいと思います。もちろん、教養ゼミナールを担当されていない先生方の参加も歓迎します(B1-WSと内容は同じです)。

A3-WS：授業デザイン研修(加藤善子)

学生が能動的に参加する（ことになる）授業をつくってみましょう。講義型から双方向型まで、どのような形態でも学生が学べば、それはアクティブ・ラーニングです。学生の努力が正當に評価され、学生が自分の状態を把握できる評価構造から、教員が学生の理解度を毎回把握しながら進めていける授業の組み立てまで、シラバスを書くまでのアウトラインを、グループワーク形式で作っていきます。

新任教員 FD 研修：(B)

B1-WS：教養ゼミナール研修（加藤鉦三）

大学一年生が学ばなければならない価値や態度、そしてスキルは何でしょう？ 教養ゼミナールは、信州大学に入学したすべての学部的一年生が、自分の専門とは異なるトピックについて、自分とは異なる専門を持つ学生と交わりながら共に学ぶ機会であり、信大アイデンティティの一部にもなります。大学生としてその後の4年間を支える教養とは何かを語り合い、教養ゼミナールが共通して持つべき目標や、意識して行う活動などについて、アイデアを出し合います。同時に、授業外学習のデザインや学習時間の設計、評価構造についても触れたいと思います。もちろん、教養ゼミを担当されていない先生方の参加も歓迎します（A1-WS と内容は同じです）。

B2-WS：アサーション（加藤鉦三）

教員の多くは学生の気持ちを理解しようと努め、対等に接しようと努力していますが、一部の学生は、それに甘んじて必要な指示に従わなかったり、時になれ合いに陥ったりします。相手の立場を否定することなく、あるいは高圧的になることなく、必要なことをきちんと伝え、相手に行動を促すための話し方を練習します

B3-WS：ICT を使った反転授業（矢部正之）

大学教育における人材育成に関し、社会からはその質の確保が求められています。単純に考えても、これらの要請に応えるためには、学生への関与の度合いを上げ、手をかけ指導することが必要になります。大学の現状を考えると、通常の方法でこれらに対応することは非常に困難なものがあります。その解決策のひとつとして、ICT（情報通信技術）の活用があります。ここではICTを使った反転授業のいくつかの事例を紹介し、皆さんの実践の中で、利用できるかどうか検討していただきます。

担当者：

田口多恵：信州大学学生相談センター

平野吉直：信州大学高等教育研究センター センター長

加藤鉦三：信州大学高等教育研究センター 副センター長

矢部正之：信州大学高等教育研究センター

加藤善子：信州大学高等教育研究センター

李敏：信州大学高等教育研究センター

☆「カンファレンス」について：

「FD 研修」と「新任教員 FD 研修」を同時進行の「カンファレンス」形式（分科会形式）で開催します。参加者はメニューを選択できますので、様々な教職員と交流をしながら、それぞれのプログラムの中から各自の興味や必要に応じて参加することができます。対象は信州大学の全教職員および県内高等教育機関の教職員です。各学部2～3人（特に教養ゼミナール群授業担当者）の方と他大学の方々にご参加いただくことで、異分野ならびにアプローチ・手法の異なる教育に関する交流を通して新たな視点を得ることができることでしょう。

☆ 新任教員 FD 研修について：

4月の新任教員研修のフォローアップ研修として実施します。対象は、信州大学に着任されたばかりの教員の方々だけではなく、着任3年以内の教職員の方々までと広がっています。本学で教育にあられる上で有用な情報等を得られる機会であり、同じ学部・他学部の先生方と交流を深め、互いに学び合う良い機会でもありますので、2016年4月の新任教職員研修対象者のみなさまは原則としてご参加ください。